

# 地域研 フォーラム Forum



創刊号

*vol.1 2009 Oct.*

創刊号 vol.1 2009 Oct.

# 地域研フォーラム

今帰仁城跡



## まえがき

### 特別研究員紹介

杏岐 一郎氏   森川 浩平氏   高木 桂蔵氏   白鳥 文子氏  
新崎 盛暉氏   山口 拓夢氏   下地 幸夫氏

### 特別研究員寄稿

山口 拓夢   バッカスとヴェスヴィオ山  
白鳥 文子   フィリピン人看護師定着支援プログラム

### 戦略連携GP

公開講座<地域活性化システム論>開催のご案内

### 土曜教養講座

第451回 第2回道州制に係る沖縄民衆議会  
「ちゃーすがー！うちなー」  
緊急シンポジウム「沖縄単独州」実現に向けて

## まえがき

「地域研究所フォーラム」を発行します。初回は特別研究員の方々からの報告です。もともとこのフォーラムの発想は、交流の場を設けようというところから始まりました。特別研究員のメンバーは約140人。大変な人数です。しかし所長の私が知っている人は半分にも達しません。おそらくはこの20年間、その時々の研究班結成の必要から様々な方に特別研究員をお願いし、それが重なってこのようなメンバーになったのでしょうか。歴代の所長から勧められて応じた方もいらっしゃるでしょう。

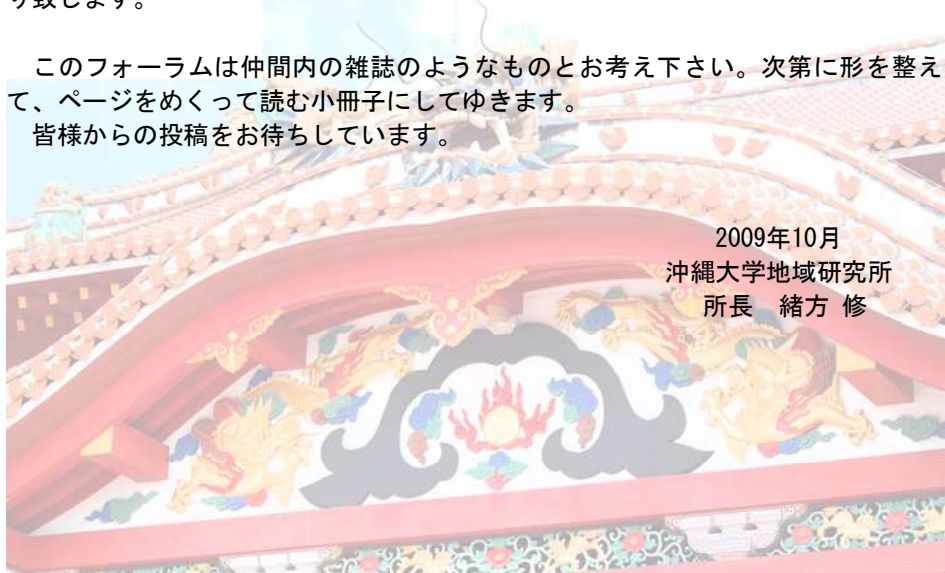
本来ならば地域研究所から定期的に連絡を差し上げ、いろいろとご相談やアドバイスを頂くべきではなかったか、と反省しています。紀要や彙報への寄稿、土曜教養講座での講演、集中講義の依頼など大学として様々な卒のご提供も考えられたはずです。

そこでまずはメンバーがどのような研究を現在進めておられるのか、近況もふくめてご報告をお願いしようと考えました。同時に、特別研究員相互の情報交流の場として利用して頂ければ幸いです。

発行は月初めを予定しています。前月の地域研究所の動き、職員の一言なども入れてゆきます。公式の報告も私的なつぶやきも混ぜて編集する予定です。

地域研究所の部屋には文部科学省のG P (Good Practice) 事業遂行のための契約職員の方も働いています。近々、遠隔授業用のカメラや大型テレビも設置されます。たまにはお顔を出して下さい。沖縄在住でない方も、研究の便宜をおはかり致します。

このフォーラムは仲間内の雑誌のようなものとお考え下さい。次第に形を整えて、ページをめくって読む小冊子にしてゆきます。  
皆様からの投稿をお待ちしています。



2009年10月  
沖縄大学地域研究所  
所長 緒方 修

## 壹岐 一郎（日本記者クラブ、メディア総研）

【ジャーナリズム、映像メディア、日中古代関係史】

1. 古代史 8月22日（土）東大阪市でフォーラム 100名予定  
A 「謎の国への“点と線”と面」邪馬台国、扶桑国を探る 一主宰・司会  
B 『0からの古代史辞典』ミネルヴァ書房・主編サポート、420ページ=3校
2. 現代史  
「裁判員制度と冤罪・松川事件」『公評』7月～12月連載中、各8ページ  
6月、マスコミ学会発表「占領下・冤罪松川事件初期報道の教訓」立命館大学  
10月、福島市「松川事件60周年」シンポ出席予定、17（土）、18（日）。
3. メディア関係  
NHKへの総務相・拉致報道要請・憲法違反裁判、大阪高裁控訴の原告=9月10日  
「放送を語る会」発足一関西民放OB会の幹事事務局  
メディア総研『放送レポート』編集・販売サポート、「関西だより」編集
4. 中国ウオッチ 年2回訪中、天津、北京 懇談会など

## 森川 浩平

【ミクロ経済学、公共経済学】

興味を抱いていて、研究の必要があるなあと思っているのは、日本本土が少子高齢化・経済規模の縮小によって衰退していく中で、沖縄は、どのような道を選べばよいのだろうか、ということです。

特に、昨今、「道州制」議論がやかましくなり、日本全体として、地域の主権の在り方が論じられているところ、そもそも沖縄が日本に属するということが、歴史的に見ると自明のことではないわけであって、主権の在り方をどういうものにすべきかは、日本の他の地域と比較してやや幅広く検討する必要があるものとの問題意識をもっております。

ですから、敢えて研究テーマとして挙げるとすれば、沖縄の経済・社会と地域の主権の在り方について～道州制における位置付けから独立論まで～というような感じになりましょうか。

## 高木 桂蔵（国際ことば学院外国語専門学校）

【中国語、華僑論】

- ①華僑・華人社会研究—主として客家人社会の分析
- ②華人のわらべうた・子守唄収集記録

## 白鳥 文子（常葉学園大学）

【日本語教育、日本文化教育、比較文化論】

## 新崎 盛暉（沖縄大学）

【沖縄近現代史、社会学】

### ●国境から平和を考える

これは、「世界」9月号のぼくと大浜長照石垣市長の対談のタイトルです。この対談には、「先島から見える日本・台湾・中国」というサブタイトルがついています。ぼくは、「方法としての東アジア」研究班(若林千代代表)と「ミクロネシアと沖縄」研究班(小野啓子代表)に所属していますが、この対談を読んでもらえば、なぜぼくがこの二つの研究班に所属しているのかが、一目瞭然、分かるようになっています。9月初旬までなら、「世界」のHPでも、ぼくがこの対談を試みた狙いが執筆者のメッセージとして掲載されています。

日本は今、三つのいわゆる領土問題を抱えています。そのひとつが、沖縄県の石垣市に所属する尖閣諸島(釣魚諸島)です。中央の戦争好きの政治家たちは、「固有の領土」論を振りかざし、ここは日米安保の共同防衛地域であることさらに主張してみたり、人口減少に悩む離島苦の与那国島に自衛隊を配備するなどとはしゃいでいます。地元にはいい迷惑だというほかありません。

この春、石垣市、竹富町、与那国町の3首長は、台湾北部圏地域の首長と、国境交流推進共同宣言を発しました。国境をまたいで、共存共栄の生活圏を作り出そうというのです。この試みを琉球新報は社説で取り上げましたが、沖縄でも、一般には、ほとんど知られていません。

沖縄が日本の1県であるように、先島は沖縄の一部ですが、「平和」の問題一つをとっても、先島には先島の、沖縄には沖縄の、独自の発想があつてしかるべきだし、そうした独自の発想に支えられた実践の積み重ねを通して、より具体性を持った、そして生活に密着した「平和」が構築されていくのです。

そんなことを考えるきっかけに、まずは「世界」9月号の対談を読んでみてください。

## 山口 拓夢（学習院大学）

【ギリシア悲劇、ギリシア神話】

研究テーマはギリシアを中心とする神話、宗教で、ギリシア悲劇の講義をしています。古代のことを古代で終わらせず、ギリシアのことをギリシアで終わらせず、「現代に多くの人が考えるに値するもの」として、論評することを目指しています。最終的には、「文化の呪術的起源」を掘り下げて考えたいです。

## 下地 幸夫（沖縄産業振興公社）

【保全生態学】

「自然の保全や保護につながる沖縄に生息するクワガタムシの生態等の調査」子どもたちや一般の方々に受け入れられやすい愛玩昆虫のクワガタムシを使用することで自然の成り立ちや保全に関心を抱いてもらうことが目的です。

## バッカスとヴェスヴィオ山

山口 拓夢

沖縄大学地域研究所特別研究員

私は、ギリシア神話のディオニュソスの研究をしています。バッカスとして知られるディオニュソスは不思議な神です。人を狂わせ解き放ちます。

ディオニュソスに憑依された者は、通常なら結びつかない異なるものどうしを結びつける創造性を発揮します。そのためディオニュソスは詩作をつかさどり、詩のジャンルである悲劇と喜劇の守り神となりました。ディオニュソスは今で言えば脳内麻薬の神であります。適量に分泌されると創造性を発揮するのですが、度を超すと発狂してしまう。

私は経済もディオニュソスと深い関わりがあると思います。広告を見て気を惹かれるのは、日常性に異質なものが介入して、神経が興奮したときです。人間はむき出しの自然をいったん遠ざけて様々な禁止をもうけることで人間になりました。けれども芸術や文学や宗教や祝祭の形で、ひとは決まりからの出口を見つけます。そのことで快感サーキットを全開にするのです。買物は祝祭のミニチュア版であり刺激を感じるとそれだけ鼓動が速くなり、欲望が掻き立てられるのです。つまり人はディオニュソスを欲しがるのであります。それが経済を回転させている、とも言えます。

プルタルコス「モラリア」のなかで、デメテルが穀物の女神であり、固体の自然であるのに対して、ディオニュソスは液状の自然（ヒュグラ・ピュシス）の神だと言っています。



ぶどう酒に加えて川の流れや樹液、血液の流れや体液といったものに古代人はディオニュソスを感じていました。私は都市の物流や貨幣の流通にもディオニュソスの働きを感じます。それらは快感サーキットの具現化であるからです。けれども、ハイデガーがオットーの著作「ディオニュソス」を絶賛し、ニーチェがディオニュソス的な哲学を主張したことを思えば、ディオニュソスこそ、万物の根底に流れる暴力的な生命力の神であり、物事を立ち現わせる存在の潜勢力の神だということの方がより深い解釈だと言えます。

そのように文化の根底にある潜勢力として多様な読み方のできるディオニュソスですが、ローマ人の想像力はより具体的で即物的でした。火山の噴火で埋まった町、ポンペイで出土した通称「バッカスとヴェスヴィオ山」と呼ばれる絵には、ヴェスヴィオ山とディオニュソスの象徴の一つで大地の力を表す大蛇とともに、胴体の部分がぶどうの房になっていて、それに顔と手足のついたバッカスの像が描かれています。このリアルで即物的な想像力に驚く他ないのですが、ディオニュソスという危険な創造性のアイコンとして、部屋に飾りたい一枚です。



## フィリピン人看護師定着支援プログラム

白鳥 文子

常葉学園大学外国語学部非常勤講師  
沖縄大学地域研究所特別研究員

### 1. テキスト作成のための医療現場の会話採録開始

まずは、次の会話をお読みください。（注：個人を特定するような情報は（xxx）としてあります。）

A: 「えー、（xxx）さんです。（xxx）歳の男性で、今回輸血の目的で入ってきました。（xx）年（xx）月に（xxx）病と診断されてから、輸血でフォロー。何回かされているんですが、今回は（xx）泊（xx）日の入院予定です。」

B: 「はい。」

A: 「で、今回入院してから、貧血の自覚症状やその他特別心配しなければならない症状もなく、バイタルも安定しています。先ほど本人と少し話しましたが、今日は外来で予定していた採血があったんですが、本人はそれを聞いていなかったということでしたので、入院されてから先生に病状と輸血の必要性をもう一回説明してもらい、本人の同意を得て、採血とルート確保とやっています。クロスマッチを出したのが16時だったので、たぶんそれ以後、夕方になって輸血が始まると思いますので、お願いします。持参薬指示が出ていないので、先生に持参薬続行の指示とサインをもらってください。一応あした退院予定なんですけど、――（以下省略）――」

B: 「じゃ、病棟にあがってくるのを待たばいいですね。とりあえず。」

これは、筆者が（xxx）県（xxx）総合病院において医療現場の日本語会話を採録し、テープ起こしをした原稿の一部です。

### 2. 外国人看護師・社会福祉候補の受入機関での研修支援のために

あらかじめ決めておいたサンプリング手法にのっとり採録してきた録音内容をこのように文字化しているのは、今秋、日比EPA(Economic Partnership Agreement: 経済連携協定)により、（xxx）県受入病院にやって来るフィリピン人看護師・社会福祉士候補者の研修用テキストを作成することになったからです。

受入人数は3病院合計6人で、日比で締結された経済連携協定（EPA）による外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れがよいよはじまったのです。同県病院協会では、外国人看護師定着支援検討会を発足させ、支援体制づくりに力を入れており、筆者がテキストを作成しているのも、その一環です。支援内容の骨子は以下のとおりです。



- 1) 外国人看護師候補者が日本の看護師国家試験に合格し、看護師として日本に定着できるよう支援をする。(看護師国家試験合格支援プログラム)
- 2) 患者・医療者の不安を解消するため、医療現場における日本語能力を高めるための支援をする。(医療現場の日本語会話支援プログラム)

### 3. 外国人看護師・社会福祉士候補が日本で就労するためには

外国人看護師・社会福祉士候補のみなさんは、最初の半年間は受入窓口となっている国際厚生事業団（JICWELS）が行う日本語研修を受け、病院又は介護施設で就労・研修を行い、日本の看護師・介護福祉士国家試験に合格すれば、日本で看護師・社会福祉士の職に就くことができます。ただし、すでに、一定の日本語能力がすでにある候補たちはこの限りではなく、別枠の研修システムにのって国家試験を目指すことになっています。いずれにしても、国家試験合格までに与えられる時間は、看護師が3年間、介護士が4年間で、その間に合格できなければ帰国を余儀なくされます。加えて、日本の国家試験はすべて日本語で行われますから、容易なことではありません。

### 4. 日本語は難しいか

言語の難しさというのは、どれだけ母語とかけ離れているかで語られるべきで、世界で一番難しい言語とか、一番やさしい言語というような言い方はなじみません。言語も習慣のひとつですから、母語との隔たりがさほどでなければ学習しやすいでしょうし、隔たりが大きければ大きいほど困難だと感じるというわけです。例えば、中国語を母語とする人が日本語を学習しようという場合、同じ漢字圏に属することから、漢字への抵抗感は希薄です。言語の構造や音声等に大きな違いはあっても、欧米・中東・南アジア・東南アジアの人たちと比べたら、中国人にとって日本語は学習しやすい言語と言えます。韓国語を母語とする人たちもまたしかりで、日本語と言語の構造がよく似ているため、音声・文字はまったく異なっても、日本語は習得しやすい言語になります。

さて、現在、日本の看護師・介護福祉士国家試験合格を目指している人の出身国はインドネシアとフィリピンに限られていますが、今後EPA締結国が増えれば、他の国々から来日する候補者も増えていくことでしょう。

フィリピンにせよ、インドネシアにせよ、日本語とは隔たりがある言語を母語としています。

筆者が長年大学での留学生教育に携わってきた経験からすれば、フィリピン・インドネシアに限らず、欧米・オセアニア・旧東欧圏・ロシア・中東・南アジア・東南アジア等からの留学生で日本語の「読み書き」に苦労しなかった人は皆無であり、大学というところは日本語学習だけが目的ではないので、漢字学習などは放棄してしまう留学生も少なくありませんでした。そういう人のなかには「話す・聞く」能力に長けている人が結構いましたから、やはり日本語の文字表記は、日本語の難しさのひとつとなっていることは否定できません。但し、ごくまれに、東洋の言語文化に尋常ならざる興味を抱いている人がいて、言語4技能のいずれも欠くことなく、

みごとに日本語を操る人もいます。

文字表記以外に日本語を難しくさせているのが、複雑な敬語体系です。ウチとソトの観念を加味しながら、その場に登場する人間関係を適切に判断して敬語を使い分けるのは、外国人にとってはほとんど無理といわざるを得ません。

## 5. 国家試験合格のためには

まずしなければならないのは、医療分野で使用されている語彙を特定することだと考えています。冒頭に記したように、医療現場の会話を採録したのは、その一環です。語彙を特定し、特定した語彙に基づいたテキストをつくり、音声言語・文字言語の両面において、効率よく、効果的に教えなければなりません。与えられた3年、もしくは4年という時間のなかでどれだけ成果をだせるか、看護師・社会福祉士候補のみならず、筆者にとっても決して軽くない仕事だと自覚しつつ、語彙調査・テキスト作成にとりこんでいます。冒頭の会話をご覧いただければおわかりのように、日本語学習歴がほとんどない人たちに、果たして医療分野の日本語を習得させて国家試験合格に導くことができるのか、自問自答することもしばしばです。

平成21年9月24日

# 全国の地域で活躍できるまちづくりリスト育成プログラム 10月

## <公開講座 地域活性化システム論 開催のご案内>

本学では、「公開講座 地域活性化システム論」を下記の通り開講します。地域活性化をめざす、県内外各地の様々な実践を取り上げて、地域再生に必要な課題について、学生や市民、行政等関係者がともに議論する場をめざしています。

■ 日時 2009年10月17日～12月5日（全7回） 13：00～16：10

■ 場所 沖縄大学2号館404教室

■ 受講料 各回（1日）500円

※フィールドワーク2,000円 参加当日お支払いいただきます。

■ 要事前申し込み 電話またはEメールにて、沖縄大学地域研究所宛てお申し込み ください。

■ 日程

### 第1回 10月17日（土） オリエンテーション

1. 戦略的大学間連携による「まちづくりリスト」育成プラン  
講師：沖縄大学地域研究所
2. 里海の再生「鉄分補給による海ブドウ栽培」  
講師：山門健一（沖縄大学）、具志堅源和（元板馬養殖場長）

### 第2回 10月24日（土） テーマ 農の再生

1. オキダイナ 夏場の栽培法について  
講師：仲宗根出（南部農林高校教諭）
2. 農の再生を目指す  
講師：山門健一（沖縄大学）、芳野幸雄（沖縄畑人くらぶ代表）

### 第3回 11月7日（土） テーマ 持続可能な観光

1. 今こそ求められる環境保全型観光の促進  
講師：桜井国俊（沖縄大学）
2. 沖縄におけるエコツーリズムの現状と課題  
講師：平井和也（沖縄県エコツーリズム推進協議会）

### 第4回 11月8日（日） テーマ 世界遺産と地域振興

1. 沖縄の世界遺産「世界遺産と地域振興」  
講師：當真嗣一（元県立博物館長）
2. フィールドワーク 沖縄・世界遺産巡り、自然信仰の道

### 第5回 11月21日（土） テーマ 特産品の開発

- 特産品開発 ～オキネシアに見る、地域ものづくり連携  
講師：稲垣暁（沖縄大学）

**第6回 11月28日(土) テーマ 地域ブランド戦略づくり**

1. 先進事例(北イタリア)に学ぶ  
講師: 奥住英二(沖縄産業計画事務局長)
2. 地域づくり企画書作成のポイント  
講師: 水野洋一郎(経営コンサルタント)

**第7回 11月7日(土) テーマ まちづくりリスト全国展開へ向けて**

札幌学院大学、法政大学、高知工科大学、沖縄大学の4校による大学間連携 プロジェクトの取り組みを紹介する。

2009年10月14日

都市圏が整備されるにつれ、地域で大切にされてきた井戸や川は埋め立てられ汚れていきまし。車社会の発達で人々は郊外の大聖店で買い物をするようになった。地域の暮らしを支えてきた商店は衰退していき、経済のグローバル化は地域のありかたを弱めていきます。

「新しい地域の危機的状況に、地域の「知」の拠点である大学は何をすべきか。沖縄大学は新しい大学の理念に「地域共創・未来共創」を掲げ、県外3大学と連携した地域活性化の担い手づくりプログラムを、沖縄・産業の離島高校・大学が連携して地域に根ざす教育を推進するプロジェクト「強動を促す」を推進している。

(一環)「まちづくり」公開講座「地



17日から 沖縄大学公開講座

地域活性化の担い手育成

「地域活性化システム論」を今月かきり回すため開催します。本学の取り組みや県内での地域活性化事例を紹介し、新たな社会システムづくりを呼びかけます。「地域活性化システム論」とは、地域住民がその地の課題を共有し地域活性化の担い手として奮闘する全国各地の大学で行われている公開講座で、多くの市民が受講しています。

テーマは「海」「農」「観光」です。第1回は11月14日午後1時から沖縄大学3号館404教室で開催。本学の取り組みがより「里海」の再生に結びつけて紹介される海ブロードキャストの開催再生についての事前報告を行います。受講料3000円。申し込み・問い合わせは沖縄大学地域研究所 藤原のぞみ (nozomi@uoc.ac.jp)。

(一環)「まちづくり」公開講座「地



琉球新報 2009年10月14日より

# 地域活性化システム論

## 「地域活性化システム論」とは？

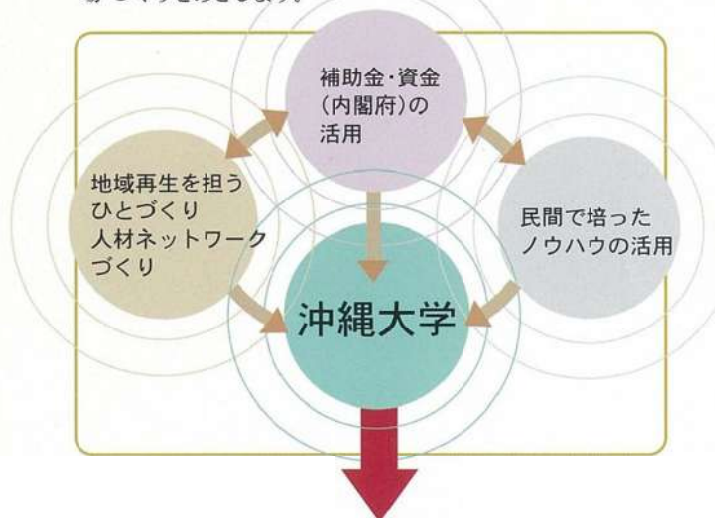
地域でのさまざまな取り組みを取り上げ、地域再生に必要な構造と特性を明らかにし、新たな社会システム構築につなげることを目的として、「地域活性化システム論」を開講します。2009年度のテーマは、「湯」「風」「観光」です。地域再生のヒント、地域で活動する組織、ネットワーク形成などの場として講義を位置づけています。

地域に存在する資源を活用し、地域を活性化するための方策について、実務の行政担当者、地域再生事業のリーダー、有識者、大学教授を講師、パネリストに迎え、今後の方向性について討議します。



## 【地域再生支援のために】

地域固有の知の拠点である大学を活用し、地域課題を、学生・行政・NPO、地域づくり団体が一体となり「地域活性化計画」等の策定作業を行う“場”づくりをめざします。



地域活性化へ!

## 第2回 農の再生 実施報告

「沖縄の夏野菜」 講師：沖縄大学教授 山門健一

沖縄の夏は野菜不足。中国野菜調査を元に導入した「オキダイナ」は暑さや病害虫に強い。高校や地域農家と連携して普及を図っている事例を紹介する。

「オキダイナの夏場栽培方法について～南部農林高校の取り組み～」

講師：施設園芸科教諭 仲宗根出、施設園芸科生徒

新野菜「オキダイナ」は農産物直売所などで販売されるようになったが、25℃以上では発芽率が極端に悪くなる。南部農林高校での育苗や遮光による栽培試験の結果を報告し、夏場栽培の可能性を示す。

「農の再生を目指す」 講師：沖縄畑人くらぶ代表 芳野幸雄

新規就農者による任意団体「沖縄畑人くらぶ」と、販売クライアントの出資により設立した農業生産法人「クックソニア」の試みから、既存の流通体系によらない農産物流通の取り組みを紹介する。

### オキダイナ・夏場の栽培方法

～南部農林高校での取り組み～



本土でも育つ。  
しかし霜が降りると、枯死する。一年草。



沖縄では、多年草。  
つる先は、台湾では「龍鬚菜」という  
人気のある野菜である。



第451回 沖縄大学土曜教養講座

第2回道州制に係る沖縄民衆議会「チャーすー！うちなー」緊急シンポジウム

# 「沖縄単独州」実現に向けて

日時：10月24日(土) 14時～17時

場所：沖縄大学3号館 101教室

(資料代：200円)

地域主権を掲げる民主党政権が誕生した。一国二制度、一括交付金なども語られている。他方沖縄県は、ポスト振計を見据え「21世紀沖縄ビジョン」の策定を急ぎ、成長のエンジンとして沖縄州を論じている。

そのような中、研究者や経済界、労働界、県議、地方自治体の首長などでつくる沖縄道州制懇話会は、沖縄の将来像とでもいうべき「沖縄特例型単独州」の提言を行なっている。21世紀の「国のかたちと沖縄の姿」として、沖縄道州制懇話会が提言する「特例型沖縄道州制」とはどういう構想と内容なのか。今度の政権交代によって、全国の先行モデルとして政策化されるのかどうか、現実味をおびてきた「沖縄の道州制」について、沖縄のアイデンティティーと将来展望について、主権者たる住民の直接参加による『沖縄民衆議会』として緊急討議する。

## 第1部 沖縄州の構想—基調発言

報告① 沖縄道州制懇話会提言の意義と課題

**仲地 博** (沖縄大学教授・前沖縄道州制懇話会座長)

報告② 純連邦型単一国家を求めて—ヨーロッパに学ぶ—

**島袋 純** (琉球大学教授・前沖縄道州制懇話会委員)

報告③ 沖縄単独州の経済

**富川 盛武** (沖縄国際大学学長・沖縄県復興審議会総合部会長)

## 第2部 民衆議会

発言希望者については、発言通告(A4一枚以内)に基づき5分以内で討論を行いますので、メールおよびFAXにてあらかじめ地域研究所へお送りいただくと幸いです。10人程度。



主催：沖縄大学地域研究所  
自治体学沖縄地域フォーラム  
沖縄民衆議会事務局

■問い合わせ先  
Tel：098-832-5599 Fax：098-832-3220  
Mail：chiken@okinawa-u.ac.jp

バス：沖縄大学前下車  
市内線→那覇バス6番 市外線→35番、40番、100番、109番  
※公共交通機関ご利用にご協力のほどよろしくお願いします。



第451回沖縄大学土曜教養講座

第2回道州制に係る沖縄民衆議会  
「ちゃーすが一！うちなー」緊急シンポジウム  
「沖縄単独州」の実現に向けて

【日 時】2009年10月24日（土）14:00～17:00

【場 所】沖縄大学3号館101教室

【主 催】沖縄大学地域研究所  
自治体学会沖縄地域フォーラム 沖縄民衆議会事務局

プログラム

あいさつ 沖縄大学地域研究所 所長 緒方 修氏

第Ⅰ部 基調発言 (14:05～15:05)

- 司会 自治体学会沖縄地域フォーラム 共同代表 中田 光信氏
- 基調発言 1 沖縄道州制懇話会提言の意義と課題  
沖縄大学教授・前沖縄道州制懇話会座長 仲地 博氏
- 基調発言 2 準連邦型単一制国家を求めてーヨーロッパに学ぶ  
琉球大学教授 島袋 純氏
- 基調発言 3 沖縄単独州の経済 沖縄国際大学学長 富川 盛武氏

(休憩 15:10～15:20)

第Ⅱ部 第2回道州制に係る沖縄民衆議会 (15:20～16:50)

- 議長あいさつ 沖縄民衆議会 議長 小橋川 清弘氏
- 発言通告 嘉数 学氏 森根 大貴氏 比嘉 康文氏  
與那嶺 新氏 又吉 章元氏 濱里 正史氏  
下地 健造氏 前泊 美紀氏 関根 忠弘氏  
東江 伸氏

質疑・討論

議長総括

あいさつ 自治体学会沖縄地域フォーラム 座安 英明氏